

京都の「桜葬」

村井定心

「むらいじょうしん」

京都府・西寿寺住職



西寿寺は、京都市にある浄土宗の尼寺です。江戸時代初期の創建で、世界遺産で有名な御室・仁和寺のすぐ近くにあります。周辺には、竜安寺や妙心寺といった観光寺院が多くあり、また古くから別荘地として大きな屋敷が連なった風光明媚な場所です。境内そのものは歴史的保存地区に指定されていて、開発はできないために、山奥のような感じがしますが、境内の外は静かな住宅街で、交通の便のよい場所にあります。

2006年から西寿寺では、都市型自然葬の「庭園葬」をしています。境内墓地が1千坪あったおかげで、墓地整理を行い、自然葬をすることができました。

西寿寺の自然葬のテーマは「癒し」で、これはお寺そのもののテーマでもあります。

その象徴として、2011年8月10日に読売テレビ系列の「ten1」という情報番組でも取り上げられましたが、「水琴窟」がこのお寺にあります。「水琴窟」は、癒しの音といわれ、お庭に2基、自然葬の墓地にも2基設置され、お参りに来られた方の心の癒しとなっています。

自然葬で埋葬され、花となって蘇るということは、大切な人を亡くした遺族への最高のグリーフケアであると私は考えています。私自身、2年半前に大切な師匠を突然死で失い大きなグリーフを受けました。おかげさまで、ようやく立ち直れるようになりましたが、師匠の死を通して、遺族の深い悲しみ・苦しみ・怒りを、他人事ひとごとではなく受け止めることができるようになりました。お寺の使命は何かということに問いかけ続けた私に、師匠は自らの命をもって「遺族の悲しみに寄り添い、共有し見守ること」、遺族のグリーフケアをすることがお寺の使命であるということをお寺に教えてくださったのだと今では思っています。自然葬はそのグリーフケアの大きな支えとなるものです。

「花に生まれ変わられた大切な人と一年に一度だけでもまた会うことができる」
そう思うだけで、悲しみに打ちのめされた心が少しだけでも癒されるような気がします。

現在、西寿寺では3タイプの庭園葬をしています。その中に桜葬も含まれています。本堂は、桜葬の墓地からは京都市内が一望でき、よく映画やドラマの撮影にも使われています。本堂は、「京都地検の女」の成増警部の実家のお寺ということで、毎週テレビ出演していました。そんな環境のいい墓地の中で、小鳥の囀りと眼下に広がる京都の街を見下ろし、美しい桜の花を見ると、大切な人とのいろいろな思い出に浸ることができます。

最近、庭園葬の中で、一番人気となっているのが、桜の木の周りに作られた花壇型墓地です。好きなお花を植えることができるのと、桜の木のすぐ側で静かに眠れるということが人気の理由のようです。

また、プレート付きなので、そのプレートに皆さん本当にいろいろな言葉を書かれています。そのプレートを見ているだけでも「楽しい」と言われた方もおられます。素直な気持ちを大切な人にお供えできるのは、とてもよいことだと思います。

また、花に埋もれて永遠の眠りにつけると思うと、私だけかもしれませんが、なんとなく嬉しいような気持ちになります。

自然葬をしてよかったと思うのは、自然葬の会員「薬師の会」の会員さんたちとの温かい交流があることです。檀家制度ではなく、自由なスタイルの墓友の会ですが、いろいろなお楽しみ行事、たとえばジャズコンサートや落語会、ポケ封じで有名な「鳴り釜」の神事、沙羅双樹と水琴窟の会など、年間を通して行われるさまざまなお楽しみ会を通じて、会員さんたちと温かい心の交流ができたことです。

遠くは北海道、九州からわざわざ会に参加してくださる方、年間行事には万障繰り合わせて皆勤賞ものの参加率を誇られる方、そして、となりに座られたというご縁からお友達をつくられた

方などいろいろなご縁であふれているこの会を通して、私自身、とても温かな気持ちになれます。いずれ、同じお墓に入る仲間どうし、生きている間に親しくなれるというのは、とても楽しいものです。

私もやがて会員の皆さんと一緒に花になれる日がくるのが今から嬉しく思えます。今までの檀家制度で結ばれた皆さんとはまた違った、親しみの心を会員の方に覚えます。

これからのお寺は、檀家さんだけでなく、広く多くの皆さんとともに、皆さんの期待に応えることのできるようなシステムをつくり上げていかなければならないのではないのでしょうか。

最後に、私は西寿寺を、「お寺が好き」と言っていただけのような場所にしていきたいと思っています。これからも、そうなれるように努力していくつもりです。微力ではありますが。

京都にご旅行の際には、別に自然葬の見学でなくても「あなたの知らない京のお寺」を散策する気分でお気楽にいらしてください。春の桜、夏の紫陽花、秋の紅葉、冬の南天、境内には四季折々の花々が植樹されていますから。お待ちしています。

泉谷山 西寿寺 [さいじゅじ]

◆宗派 浄土宗・捨世派

◆所在地 〒616-8253

京都市右京区鳴滝泉谷町16

◆連絡先

電話 075-462-4851(代表)

075-462-4850

FAX 075-462-4851

◆ホームページ

<http://www.d4.dion.ne.jp/~saijuji/>

◆交通アクセス

京都駅より市バス26号で約40分、「福王子」下車徒歩7分。三条京阪より市バス10号で約30分。

◆沿革

寛永4年(1628年)、浄土宗の高僧・岱中良定上人が開山しました。

◆主な活動

NPO法人自分で考えるラストセレモニーの会

◆その他

境内の庭にご霊泉の水を引いた陰陽一対の水琴窟があります(見学は要予約)。



樹木墓地



水琴窟・陽「三光石」



水琴窟・陰「丈六」

【墓地の概要】

◆名称 桜葬、樹木墓地(庭園墓地・ホワイトロード)

◆特徴

宗旨・宗派・国籍・宗教は問いませんが、西寿寺墓地内で行う宗教儀礼、供養、墓に関することはすべて西寿寺が行います。継承は自由です。会員は水琴窟を聴く会、護摩焚き、落語会、音楽会、ボケ封じの鳴り釜などの年間行事に参加できます。

◆埋葬方法

お茶の葉で作られた特殊なカプセルに納骨して埋葬します。

◆期限の有無

大半は自然葬ですが、一部は合祀墓の薬師如来さまに分骨させていただき、薬師の会の会員として、合同位牌に戒名等を記名して、永代にお守りさせていただきます。永代供養付きで、月命日には回向させていただきますので、跡取りがいなくても無縁仏になることはありません。

◆契約の条件 原則生前予約制

◆費用

入会金5,000円、納骨志納料135,000円(永代供養料含む)、管理費用なし(永代使用权はない)

◆その他

桜散骨しだれの札、桜葬花壇型墓地、家族型庭園墓地(桜の苑・藤の園)などもあります。お問い合わせください。



桜葬